

# 令和5年産 仙南稲作情報（第4号）

令和5年7月12日発行  
宮城県大河原農業改良普及センター  
TEL：0224-53-3496 FAX：0224-53-3138  
※この資料に関する問い合わせは、  
上の連絡先までお願いします。

- 一部の地帯・品種を除き、概ね幼穂形成期に達しています。
- 間断かん水により根腐れを防止しましょう。
- いもち病発生は平年よりもやや多い。

## 1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月9日）

- ・6月11日頃に梅雨入りし、散発的な降雨も見られたが、平年に比べて日照時間が長く（123%）、高温傾向（平均気温+2.2℃）で推移した。特に、6月後半から高温傾向が強くなり、真夏日も多くみられた。7月10日時点では、梅雨明けは発表されていない。

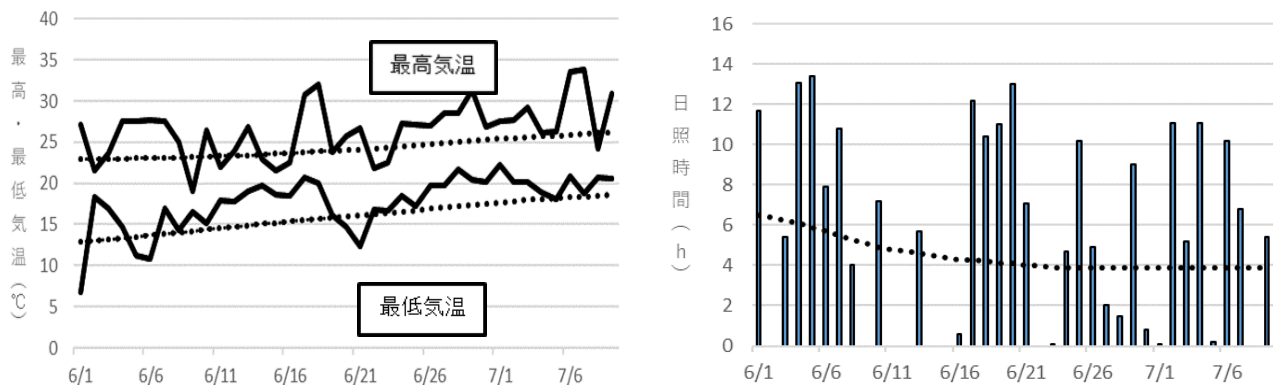


図1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月9日）

※仙台管区气象台（7/6 発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方太平洋側の日照時間はほぼ平年並、降水量は平年並か多い、気温は高い見込みです。特に期間の前半（7/8～7/21）は、高くなる見込みです。

## 2 管内の生育状況

### （1）【7月10日調査結果】

**移植が遅い調査ほを除き概ね幼穂形成期に到達。草丈は長く、必要茎数は概ね確保。葉数は進み、葉色はやや低い傾向。**

- ・生育期間全体として高温多照のため、全般に生育が早まっています。
- ・南部平坦の「ひとめぼれ」については、生育調査ほでは幼穂長が2mmを超え、「幼穂形成期」を過ぎてきていますので、一般ほ場でも「幼穂形成期」を過ぎつつあると思われます。
- ・南部平坦の5月上旬植え「つや姫」は、幼穂長が2mmを超え「幼穂形成期」を過ぎているとみられます。5月下旬植えでは、1mm以下の幼穂長が観察されるようになってきたため、間も

なく「幼穂形成期」に入るとみられます。

- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、草丈・莖数・葉数・葉色が平年を上回り、間もなく幼穂長が1mmを超えて「幼穂形成期」に入るとみられます。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、莖数が平年よりも少なく、葉数は平年並みで進んでいます。幼穂長が1mmを超え「幼穂形成期」に入っているとみられます。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にしてください。

表1 管内の生育調査結果（7月10日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		莖数		葉数		葉色		幼穂長						
				本年	前年	(cm)	前年比	(本/m)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差	前年差				
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/11	5/18	73.5	115	106	424	96	121	12.3	0.6	0.6	39.8	0.6	▲ 0.4	35.7	30.7	28.7
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/6	5/7	76.2	112	104	532	89	93	12.1	0.6	0.4	36.1	▲ 1.0	▲ 0.7	13.0	7.3	4.4
南部平坦平均 ひとめぼれ				5/8	5/12	74.9	113	105	478	92	107	12.2	0.6	0.5	38.0	▲ 0.2	▲ 0.6	24.3	19.0	16.5
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/24	5/23	67.6	107	106	455	91	96	11.1	0.6	0.6	42.8	▲ 1.3	▲ 0.3	0.2	▲ 0.6	▲ 2.3
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/2	5/4	69.9	108	99	545	126	137	11.5	0.2	0.4	40.6	▲ 0.7	▲ 0.9	3.7	1.1	▲ 0.4
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/18	5/13	63.2	113	113	434	118	105	11.6	0.8	1.1	43.7	2.4	1.3	0.7	▲ 0.6	▲ 1.6
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/25	5/23	56.1	103	102	461	94	86	9.7	0.0	0.3	42.0	▲ 3.2	1.6	1.4	0.9	▲ 0.6

◆ 平年値は前5か年(H30~R4)の平均値

※ 角田市「つや姫」は調査5年目のため過去4年の平均値を平年値とした。村田町「つや姫」は調査4年目のため過去3年の平均値を平年値とした。七ヶ宿町「やまのしずく」の幼穂長は、令和元年を除く4年の平均値を平年値とした。

## (2) だて正夢について

- ・南部平坦の「だて正夢」は、幼穂長2mmを超え「幼穂形成期」に達しています。莖数は、前年よりも少なめですが、有効莖数が確保されています。葉色は前年よりも3ポイントほど濃くなってきています。
- ・西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長1mmを超え、「幼穂形成期」に達してきているとみられます。草丈・莖数は前年を上回り、葉数は前年並みで、葉色は前年よりも2ポイントほど淡くなっています。

表2 だて正夢の生育調査結果（7月10日実施）

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		莖数		葉数		葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/7	5/6	78.9	101	397	97	11.8	▲ 0.2	40.4	3.2	10.0	0.8
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/19	5/21	75.3	113	506	116	10.3	0.0	42.6	▲ 2.2	1.2	▲ 2.0

## 3 今後の管理

### (1) 生育ステージの予測

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
出穂前日数	25日	15日	12日
幼穂長(mm)	1~2	30~40	80~100
葉耳間長(cm)	-	-10	± 0

○葉色や生育ステージのほ場間差が見られます。今後は、生育状況に応じた追肥や、病虫害防除の実施が重要です。

○生育ステージは、「ほ場ごと」に異なるので、「ほ場ごと」に幼穂長を測定するなど、正確な生育ステージを把握に努めましょう。

## (2) 水管理

○中干し終了後は、「かん水」してから自然落水し、2～3日田面を乾かしてから「かん水」する「間断かん水」を行い、根に十分に水分と酸素を供給しましょう。

○出穂期は稲が必要とする水分が多くなります。出穂期には湛水しましょう。

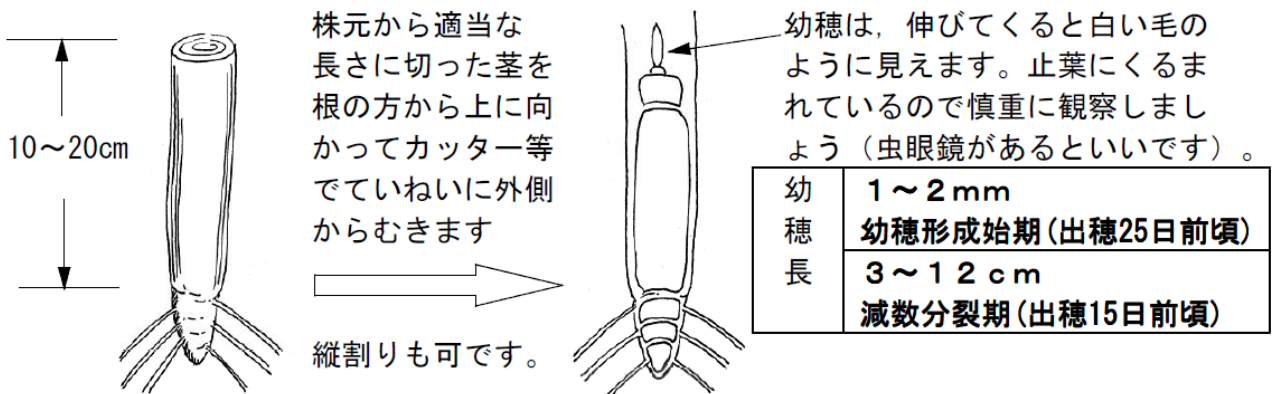
💡 倒伏が心配される復元田等では、目標茎数を確保後、落水期まで自然落水後に田面を乾かす期間を長めにとりながら、「間断かんがい」を行いましょ。根の健全化と茎の充実を図る水管理です。

## (3) 追肥

□ 幼穂長を確認して、適期に追肥をしましょう。

- ・追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」又は「減数分裂期」に行いましょう。  
※品種によって、追肥回数や追肥時期が異なりますので、次項を参照ください。
- ・幼穂形成期の追肥は、分けつの退化防止と1穂粒数の増加に効果的です。  
しかし、追肥量が多すぎると、下位節間を伸長させ倒伏を引き起こしたり、粒数過剰となり登熟不良を招いてしまいます。
- ・減数分裂期の追肥は、登熟初期の光合成能力向上により、登熟歩合の向上や乳白粒等の低減効果が期待されます。

### 【幼穂長の調べ方】



※適正な追肥量は食味に影響しません。



## ②斑点米カメムシ類

□水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、遅くとも7月20日までに終わるようにしましょう。

※本県の主要種であるアカスジカスミカメに対しては、幼虫の発生時期である7月半ば頃の草刈りが密度抑制に効果的です。

※稲の出穂期前後に刈取ると、カメムシ類を水田に追い込んでしまうので、刈取時期を逸しないようにしましょう。

□出穂期以降の薬剤防除

- ・薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ・ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう（出穂始～穂揃期）。
- ・出穂後、やむを得ず水田周辺の牧草等を刈取の場合は、刈取り後直ちに水田の薬剤防除を実施しましょう。

□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類が水田内に生息しています。出穂前に、水田内の雑草を防除しておきましょう！



### < 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

#### 斑点米カメムシ類の防除対策

5～6月	7月	8月	9月
移植期		穂揃期	7月10日後
		● 薬剤防除（1回目）	● 薬剤防除（2回目）
	● 水田内の雑草対策	● 畦畔・雑草地の草刈管理	● 牧草地の適正な刈り取り管理

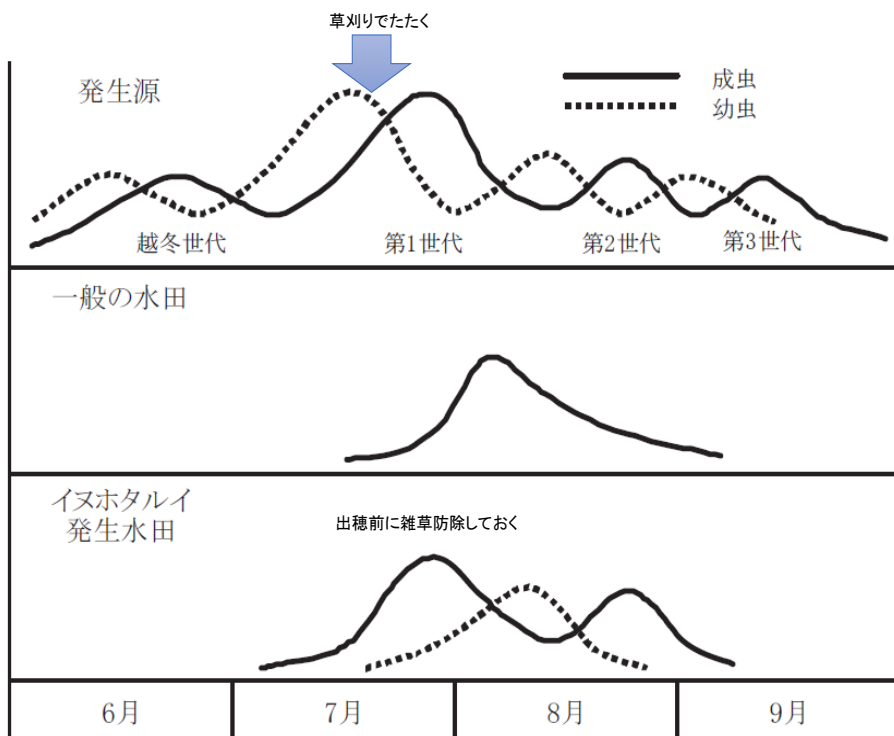


図 アカスジカスミカメの発生源及び水田における発消長



## 4 直播栽培における管理のポイント

### 【7月10日調査結果】

- ・湛水直播栽培の普及展示ほの生育について、草丈は長く、葉数は進んでいます。葉色は前年よりも薄くなっています。茎数は前年よりも少ないですが、有効茎数は十分確保されています。

表3 生育調査結果（7月10日）

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/m <sup>2</sup> )		草丈		茎数		葉数		葉色	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/m <sup>2</sup> )	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/10	5/10	47.6	62.5	62.8	125	493	87	10.9	1.8	41.2	▲ 3.9

### ① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、移植栽培と同様に「間断かん水」としますが、田面を乾かして倒伏を防止するため、乾かす期間を長めにとりましょう。

### ② 追 肥

- ・減数分裂期に1回、窒素分量で10a当たり1kgの追肥を考慮しましょう。  
ただし、倒伏等が懸念される場合は、追肥を控えましょう。

### ③病害虫防除

#### 【葉いもち】

- ・葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展するケースが多いので、初発の確認が遅れないようしましょう。

#### 【イネツトムシ（イチモンジセサリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では、7月中旬頃の葉色が濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬頃の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。

## ○令和5年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- 農薬の使用に当たっては、  
農薬のラベルをよく読み、周辺へ配慮し、飛散防止対策を徹底しましょう！
- 最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。

([https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_tekisei/index.html](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html))

○これから暑い時期を迎えます。熱中症に注意しましょう！